



第7次NACCS基本仕様の概要 (第3回)

2020年9月

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

- I 第7次NACCS更改の開発コンセプトおよび検討体制等について
- II システムの安定稼働（システム構成等）
- III システム処理方式関係
- IV 業務仕様
- V 最新技術の導入・各種デジタルプラットフォーム（貿易情報基盤）との連携
- VI 第7次NACCSへのシステム移行
- VII 開発スケジュール

Ⅲ システム処理方式関係

Ⅲ システム処理方式関係（1）

1. オンライン処理方式

- 第7次NACCSでは、民間利用者とのインターフェース（接続）として、以下の処理方式・電文形式を提供することとし、必要に応じて対応範囲・業務の見直しを検討する。

【データ送受信処理方式と電文形式】

処理方式		ネットワーク	利用プロトコル	電文形式	パッケージソフト
インタラクティブ処理方式	会話型	NACCSネットワーク	HTTP	NACCS-EDI電文	○
	SMTP双方向		SMTP	NACCS-EDI電文	-
XML電文（注1）				-	
メール処理方式			SMTP/POP3	NACCS-EDI電文	-
				EDIFACT電文(注1)	-
				XML電文（注1）	-
netNACCS処理方式	パッケージソフト	インターネット	HTTPS	NACCS-EDI電文	○
	自社システム向け（注2）		HTTPS	NACCS-EDI電文	-
XML電文（注1）				-	
WebNACCS処理方式			HTTPS	ブラウザ電文	-

注1：EDIFACT電文およびXML電文で利用可能な業務については限定する。

注2：ebMS処理方式で対応していたXML電文対象業務は引続きnetNACCS処理方式にて対応する。

- なお、第6次NACCSで提供しているebMS処理方式およびGW配下用パッケージソフト（メール処理方式）については廃止する。ebMS処理方式の廃止に伴い、インターネット経由での新たな自社システム接続として、netNACCS処理方式の仕様の公開を行うこととする。

2. 電文長

- 第7次NACCSにおけるNACCS-EDI電文の最大電文長は、第6次NACCS同様、原則として700KBとする。

Ⅲ システム処理方式関係（２）

3. システム制限値（処理件数・データベース（DB）保存期間）

- ・第7次NACCSでは、システム制限値（処理件数・DB保存期間）については、原則として第6次NACCSと同等とし、必要に応じ見直しを検討する。

4. EDIFACTのバージョンアップ対応

- ・第7次NACCSでは、現行バージョンに対応した機材のサポート期間終了に伴い、自社システム（EDIFACT）利用者への影響を考慮し、全面刷新が行われた「バージョン12」の採用を前提に検討を行っていく。但し、今後更に新たなバージョンがリリースされた場合には、改めて「バージョン12」の採用の可否を検討する。

5. 添付業務の見直し

- ・第7次NACCSにおいては、添付可能な容量に関し、原則として、1ファイル当たりの上限を10MB、総ファイル容量を30MBへ拡大を図ることとし、それを前提としたシステム構成、ネットワーク構成を検討する。
- ・添付容量の拡大と併せ今後詳細仕様において、税関および関連省庁向けの添付業務に関する仕様の統一について検討する。

6. WebNACCS対象業務の拡大

- ・第7次NACCSでは、利用者要望を踏まえて、更なるWebNACCS対象業務の拡大を行う。
- ・WebNACCS処理方式では、新たにスマートフォン等のモバイル端末による利用を可能とし、利便性の向上が見込める機能の追加を検討する。Web化業務としては、以下の業務のほか、搬出入（航空）業務を候補とする。
 - 「包括保険確認登録（HKA）」業務
 - 「包括保険確認登録呼出し（HKB）」業務
 - 「担保照会（IAS）」業務

7. モバイル端末（スマートフォン・タブレット）への対応

- ・業務の効率化やNACCSの利便性向上が見込めるWebNACCS機能を対象としたモバイル端末への対応を検討する。
- ・現状ではモバイル端末でのデジタル証明書の取得手順が煩雑であり、NACCSでの利用は困難であることが想定されるため、モバイル端末での他の多要素認証方法についても検討する。

【参考Ⅲ－４】第6次NACCS 添付業務及び各業務の容量等一覧

項番	業務コード	業務名	関係省庁	ファイル数	1ファイルの容量 (MB)	合計ファイル容量 (MB)
1	MSX	申告添付登録	税関	10	3	10
2	MSY01	申告添付訂正	税関	10	3	10
3	MSB	添付ファイル登録	税関	－ ※ 1	3	10
4	MSF01	通関系関連省庁添付登録	検疫 (食品)	10	5	5
5	MSF02	通関系関連省庁添付登録	動植物検疫所	5 ※ 2	1	5
6	MSV	輸出証明書等発給申請	農水・国税等	－ ※ 1	10	10
7	JAF	外為法 添付書類等追加申請	経産省	10	10	10
8	JAB	外為法 補正申請	経産省	10	10	10
9	JAA	外為法 電子ライセンスの訂正申請	経産省	10	10	10
10	HYS	汎用申請	税関	－ ※ 1	5	10
11	KFT	ファイル申請	港湾管理者	10	10	10
12	POC	医薬品医療機器等輸入報告	厚生局等	－ ※ 1	10	10
13	PTC	医薬品医療機器等輸出届出	厚生局等	－ ※ 1	10	10
14	PYA	医薬品医療機器等利用者情報登録	厚生局等	－ ※ 1	10	10

※ 1 上限の設定無し

※ 2 一部の申請は 2 件まで

Ⅲ システム処理方式関係（２）

3. システム制限値（処理件数・データベース（DB）保存期間）

- ・第7次NACCSでは、システム制限値（処理件数・DB保存期間）については、原則として第6次NACCSと同等とし、必要に応じ見直しを検討する。

4. EDIFACTのバージョンアップ対応

- ・第7次NACCSでは、現行バージョンに対応した機材のサポート期間終了に伴い、自社システム（EDIFACT）利用者への影響を考慮し、全面刷新が行われた「バージョン12」の採用を前提に検討を行っていく。
但し、今後更に新たなバージョンがリリースされた場合には、改めて「バージョン12」の採用の可否を検討する。

5. 添付業務の見直し

- ・第7次NACCSにおいては、添付可能な容量に関し、原則として、1ファイル当たりの上限を10MB、総ファイル容量を30MBへ拡大を図ることとし、それを前提としたシステム構成、ネットワーク構成を検討する。
- ・添付容量の拡大と併せ今後詳細仕様において、税関および関連省庁向けの添付業務に関する仕様の統一について検討する。

6. WebNACCS対象業務の拡大

- ・第7次NACCSでは、利用者要望を踏まえて、更なるWebNACCS対象業務の拡大を行う。
- ・WebNACCS処理方式では、新たにスマートフォン等のモバイル端末による利用を可能とし、利便性の向上が見込める機能の追加を検討する。Web化業務としては、以下の業務のほか、搬出入（航空）業務を候補とする。
 - 「包括保険確認登録（HKA）」業務
 - 「包括保険確認登録呼出し（HKB）」業務
 - 「担保照会（IAS）」業務

7. モバイル端末（スマートフォン・タブレット）への対応

- ・業務の効率化やNACCSの利便性向上が見込めるWebNACCS機能を対象としたモバイル端末への対応を検討する。
- ・現状ではモバイル端末でのデジタル証明書の取得手順が煩雑であり、NACCSでの利用は困難であることが想定されるため、モバイル端末での他の多要素認証方法についても検討する。

以下のオンライン業務について、現行システムで提供を行っている。

➡ (1) 海上入出港業務

業 務 名	業務 コード	業 務 名	業務 コード	業 務 名	業務 コード
船舶基本情報登録	WB X	移動届	WMR	入港料減免・還付申請	WER
船舶基本情報訂正	WB X	移動届呼出し	WMR	入港料減免・還付申請呼出し	WER
船舶基本情報訂正呼出し	WB X	出港届等	WOT	船舶運航動静通知	WER
船舶運航情報登録	WB X	出港届等呼出し	WOT	船舶運航動静通知呼出し	WER
乗組員情報登録	WB X	出港届等B	WOT	海側施設使用許可申請	WST
旅客情報登録	WB X	出港届等B呼出し	WOT	海側施設使用許可申請呼出し	WST
船用品情報登録	WB X	入出港届等照会	WVS	陸側施設使用許可申請	WLT
船舶運航情報登録呼出し	WB X	申請状態確認	WVS	陸側施設使用許可申請呼出し	WLT
乗組員情報登録呼出し	WB X	船舶基本情報登録 (内航船)	WB X	ファイル申請	WFT
旅客情報登録呼出し	WB X	船舶基本情報訂正 (内航船)	WB X	とん税等納付申告	WPC
船用品情報登録呼出し	WB X	船舶基本情報訂正呼出し (内航船)	WB X	不開港出入許可申請	WCP
入港前統一申請	WPT	入港前統一申請 (内航船)	WPT	船舶コード照会	WVK
入港前統一申請呼出し	WPT	入港前統一申請呼出し (内航船)	WPT	船舶管理情報照会	WVC
入港前統一申請B	WPT	入港届 (内航船)	WIT	不開港出入許可申請照会	WPP
入港前統一申請B呼出し	WPT	入港届呼出し (内航船)	WIT	入出港日別一覧照会	WVD
入港届等	WIT	移動届 (内航船)	WMR	船舶資格変更届	WKC
入港届等呼出し	WIT	移動届呼出し (内航船)	WMR	船舶資格変更届呼出し	WKS
入港届等B	WIT	出港届 (内航船)	WOT	船舶資格変更届照会	WKP
入港届等B呼出し	WIT			帳票確認	WNC
				一時保存情報呼出し	WSC
				乗組員・旅客・危険物アップロード	WUD

➡ (2) 照会業務

海空	業務名	業務コード
空	輸入貨物情報照会	IAW0W
空	輸出貨物情報照会	IGS0W
空	混載貨物仕立状況照会	IMA0W
空	輸出入者情報照会	IIE0W
空	輸入申告等照会	IID0W
空	輸出申告等一覧照会	IES0W
空	輸入申告等一覧照会	IDI0W
空	輸出申告等照会	IEX0W

海空	業務名	業務コード
海	貨物情報照会	ICG0W
海	コンテナ情報照会	ICN0W
海	輸入申告等照会	IID0W
海	積荷目録状況照会	IMI0W
海	輸出入者情報照会	IIE0W
海	輸出申告等照会	IEX0W
海	輸入申告等一覧照会	IDI0W
海	輸出申告等一覧照会	IES0W

➡ (3) 損害保険業務

業務名	業務コード
包括保険仮事項登録	HHA0W
包括保険仮事項登録呼出し	HHB0W
包括保険仮登録	HHC0W
包括保険照会	IIN0W

➡ (4) その他

業務名	業務コード
利用者情報登録	URY0W

WebNACCS対象業務として、利用者ヒアリングで要望のあった下記業務のWeb化について検討を行うこととする。

→ Web化対象業務

検討の背景

前ページに記載のとおり、現在WebNACCSでは包括保険の仮事項登録関連の機能のみを提供しており、本登録（包括確認登録）関連の機能は、パッケージソフトによる提供としている。

また、第7次NACCSのあり方検討の際に実施したアンケートでは、WebNACCSによる当該機能の提供を求める声が挙がったことから、今回、Web化について検討することとした。

業 務 名	現行の業務コード
包括保険確認登録	HKA
包括保険確認登録呼出し	HKB
担保照会	IAS

WebNACCSでの新規業務（機能）の提供を検討するにあたり、利用環境を含めたWebNACCS自体の利便性についても配慮する必要があり、WebNACCSを利用する際のデジタル証明書の要否やその他の認証方法など、業務（機能）以外の要件が全体の利便性に大きく影響することから、別案件として検討されている課題※の方針も配慮しつつ、検討を行うこととする。

また、上記業務の他にWebNACCSによる提供が求められた場合は、適宜、検討を行うこととする。

※ 課題名：「デジタル証明書の見直し」、「モバイル端末への対応」等

Ⅲ システム処理方式関係（２）

3. システム制限値（処理件数・データベース（DB）保存期間）

- ・第7次NACCSでは、システム制限値（処理件数・DB保存期間）については、原則として第6次NACCSと同等とし、必要に応じ見直しを検討する。

4. EDIFACTのバージョンアップ対応

- ・第7次NACCSでは、現行バージョンに対応した機材のサポート期間終了に伴い、自社システム（EDIFACT）利用者への影響を考慮し、全面刷新が行われた「バージョン12」の採用を前提に検討を行っていく。但し、今後更に新たなバージョンがリリースされた場合には、改めて「バージョン12」の採用の可否を検討する。

5. 添付業務の見直し

- ・第7次NACCSにおいては、添付可能な容量に関し、原則として、1ファイル当たりの上限を10MB、総ファイル容量を30MBへ拡大を図ることとし、それを前提としたシステム構成、ネットワーク構成を検討する。
- ・添付容量の拡大と併せ今後詳細仕様において、税関および関連省庁向けの添付業務に関する仕様の統一について検討する。

6. WebNACCS対象業務の拡大

- ・第7次NACCSでは、利用者要望を踏まえて、更なるWebNACCS対象業務の拡大を行う。
- ・WebNACCS処理方式では、新たにスマートフォン等のモバイル端末による利用を可能とし、利便性の向上が見込める機能の追加を検討する。Web化業務としては、以下の業務のほか、搬出入（航空）業務を候補とする。
 - 「包括保険確認登録（HKA）」業務
 - 「包括保険確認登録呼出し（HKB）」業務
 - 「担保照会（IAS）」業務

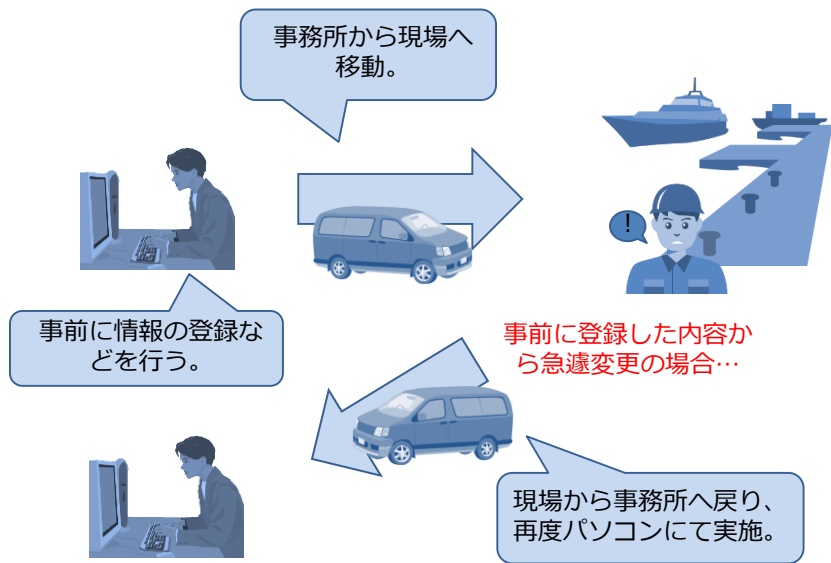
7. モバイル端末（スマートフォン・タブレット）への対応

- ・業務の効率化やNACCSの利便性向上が見込めるWebNACCS機能を対象としたモバイル端末への対応を検討する。
- ・現状ではモバイル端末でのデジタル証明書の取得手順が煩雑であり、NACCSでの利用は困難であることが想定されるため、モバイル端末での他の多要素認証方法についても検討する。

【ユースケース案の一例：海上入出港手続き】

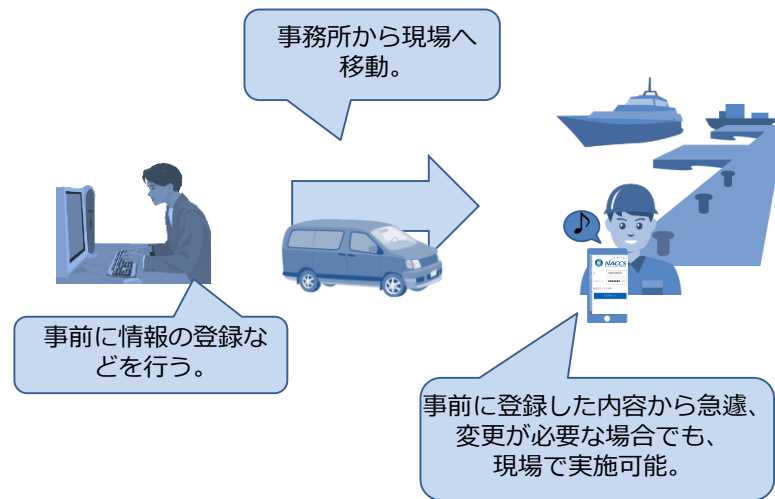
<現状>

事前に情報登録などを行っていたが、現場での作業中に急な内容変更が発生した場合、再度事務所に戻り、パソコンにて申請をする必要がある。



<対応後>

通常時、緊急時にかかわらず、現場での実施が可能となる。



【利用者アンケートで挙げたユースケース案】

- ・ 外出先での各許可の確認ができる。(通関業)
- ・ 税関での検査対応者がスマートフォンで貨物情報がわかる。(通関業)
- ・ 緊急事態(台風時の地域停電時等)時に、2次手段として活用したい。本船入出港業務で利用したいと考えている。(CY)
- ・ 将来的には照会業務をモバイル端末(デバイス)で活用できると便利になるかもしれない。(NVOCC)

モバイル端末対応の対象範囲は、業務の効率化や利便性向上への貢献が見込めるWebNACCS機能とし、開発に要するコスト、期間等を踏まえ判断することとする。

8. 第7次NACCSと接続する対象システム (外部インターフェース)

第7次NACCSで想定される外部システムとの連携図



- 第6次NACCSでは、国内外の関連システムとの間で接続を行っているが、第7次NACCSにおいても第6次NACCSと同様に外部の関連システムとの接続を可能とする。
- 政府または民間の主導で運用・開発等が行われている各種デジタルプラットフォームとの連携の可能性についても検討する。

第7次NACCS基本仕様に関する
ご意見・ご質問等につきましては、
下記メールアドレス宛にご連絡願います。



setsumeikai-v7@naccs.jp

第7次NACCS基本仕様に関する
「更改専門部会・WG」における議論の内容や
「基本仕様書」本文につきましては、
以下NACCS HPに掲載しておりますので、
是非一度ご参照下さい。



https://www.naccs.jp/archives/7g_naccs/index.html



次回は

IV 業務仕様

です。